

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇PVC Award 2023 表彰式と展示会（東京会場）の紹介

■ [随想](#)

◇2005年シリア旅行記（1）3度目のシリア

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■ [トピックス](#)

◇PVC Award 2023 表彰式と展示会（東京会場）の紹介

【PVC Award 表彰式】 2月6日 塩ビ工業・環境協会（中央区新川）

PVC（塩ビ）素材の特長を活かした魅力ある製品を表彰するコンテスト「PVC Award 2023」が開催されました。このコンテストは、PVCの特性を活かしながら、生活の利便性向上やリサイクル、安全・防災などの面で機能を発揮し、社会に貢献する製品の発掘を目指しています。今回のテーマは、「生活を豊かにするPVC製品」。応募作品64点から、準大賞1点、優秀賞4点、特別賞3点、入賞5点が選ばれました。

2月6日、来賓に経済産業省 金井伸輔室長、外部審査員に橋田規子氏（芝浦工業大学 デザイン工学部教授）、山本佳世子氏（日刊工業新聞社 論説委員・編集委員）をお迎えして表彰式が開催されました（総勢53名）。会場では受賞作品が展示される中、アップサイクル、社会貢献度、デザイン性などの各受賞作品の特徴と審査会で評価された点を紹介。表彰状と記念品が授与されました。



経済産業省 金井室長のご挨拶（抜粋）：

『塩ビは昔から親しまれてきた素材ですが、今回のコンテストを通じて、まだまだ多様な用途が開拓できると改めて実感しました。塩ビは耐久性が高いながらも柔軟性があり、なおかつ透明性にも優れた素材です。そうした様々な塩ビの特性が、災害対応製品やデザイン性の高い製品などに表われていたと思います。塩ビの特性を活かすことで、革新的な利用が可能だと思える受賞作品の数々でした。また、塩ビは二酸化炭素の排出量削減などを通じて地球環境へ貢献できるという点でも、「生活を豊かにする」ことができると考えています。現在、経済産業省では、脱炭素社会の実現に向けてグリーントランスフォーメーション（GX）を推進しています。GXは環境への負荷を軽減しながら経済活性化を実現するための取り組みです。塩ビは今後、さらに社会に貢献できる素材だと

期待しています。ぜひ、これからも塩ビ業界を盛り上げていただきたいと思います。』

橋田先生のご講評（抜粋）：『水害対策用の作品が多数受賞、身近で役に立つ製品と出会った本年の受賞作品は、塩ビのタフで信頼のおける特性を活かした作品が出揃いました。特に水害対策用の製品が多く受賞されています。準大賞の「エスロン大型建物用雨とい」は、技術的に難しい成型を実現し、軽量化したことで施工の負担を減らせるという課題を解決。優秀作の「スリム内副管マンホール継手」は、楕円形にするという明快な発想で小型化を達成し、施工性の向上や長寿命化に貢献しました。また、「CELL ワインバッグ」は、色使いもキュートで、構造を活かしたデザインは見るだけでも楽しくなる作品でした（デザイン性を評価）。身近で役に立つ作品が多く見出されたコンテストになったと思います。次回もたくさんのご応募をお待ちしています。』

また、受賞者代表（準大賞 積水化学工業(株) 三宅氏）から、次のご挨拶をいただきました。『今回のコンテストを通じて、ユニークで多種多様な作品、塩ビを扱う仲間である皆様との出会いがありました。これからも、塩ビ業界全体の健全な発展に貢献し、次回以降の PVC Award にも作品を出せるよう邁進したいと思います』



【PVC Award 展示会／東京会場】 3月1日～11日

3月1日、【GOOD DESIGN Marunouchi】にて、Award 展示会が始まりました。初日は肌寒い天気にも関わらず、多くの方にご来場いただき、一時的には入口に行列ができるほどでした（387人／日）。

また、人気投票もアンケート回収率70%を超えました！会場管理者によると、『他の展示では見られない高い回収率は、色鮮やかな展示品のユニークさが来場者に響いていると感じました。今年一番の賑やかさで始まった本展示、どうぞよろしく願いいたします。』とのこと。また、人気投票ではたくさんの方が真剣に作品を見分され、アンケート用紙の回収時には、『楽しかった』『面白いものを見せてもらいました』『PVCのイメージが変わりました』などのご意見を頂きました。



今年一番の賑やかさで始まった本展示、どうぞよろしく願いいたします。』とのこと。また、人気投票ではたくさんの方が真剣に作品を見分され、アンケート用紙の回収時には、『楽しかった』『面白いものを見せてもらいました』『PVCのイメージが変わりました』などのご意見を頂きました。

東京会場は3月11日まで開催し、4月9日～11日には名古屋会場（名古屋駅前）にて展示会を開催します。是非、ご来場いただき、PVC製品の魅力に触れていただきた

いと思います。

尚、人気投票は展示会終了後に集計してオーディエンス賞（5点）を決定します。奮っての来訪と投票をお願いします！目印はドラゴンのバルーンモニュメントです。

【東京会場 GOOD DESIGN Marunouchi】(東京都千代田区丸の内 3-4-1 新国際ビル 1F)

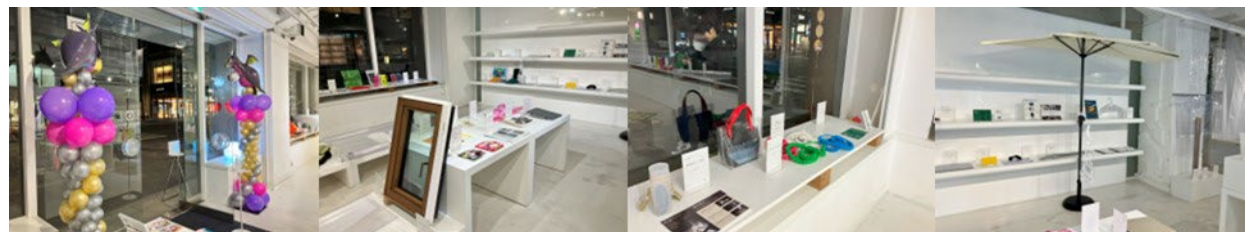
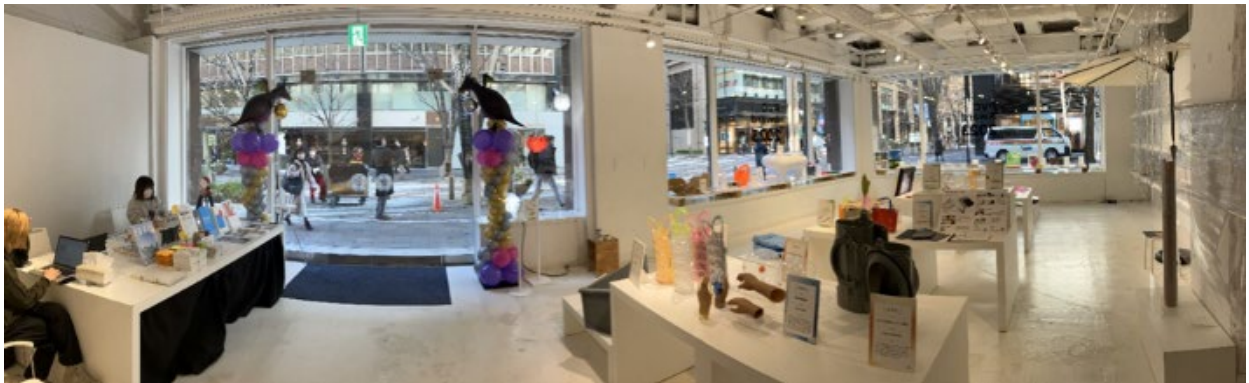
2024年3月2日(土)～11日(月)

開場 11時～20時 (11日 17時まで)

【名古屋会場 ウィンクあいち】(愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-3 8)

2024年4月9日(火)～11日(木)

開場 10時～18時 (11日 16時まで)





順不同に掲載

■ 随想

2005年シリア旅行記（1）3度目のシリア

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

2005年、当時、世界のインターネットの普及率は66.8%。携帯電話の普及率は33.9%と、インターネットはほとんどの国や場所で使えるようになり、携帯電話も一般の人でも持てるようになった時代でした。

日本では1995年から始まったPHS電話の普及もありインターネットの普及率は88.1%、携帯電話の普及率は85.3%とほぼ誰でも使えるようになっていました。

残念ながらスマートフォンはまだ開発されていませんでした。

2005年、シリアでは外国人旅行者が利用できるインターネットへのアクセスポイントがありませんでした。また、国内のインターネットも国の監視下にあるため外国人旅行者がシリア国内から電子メールを送ることもできませんでした。

シリア、アメリカが名指しで非難し、イラク進攻が終わり、この次にアメリカ軍が攻撃をするのがシリアではないかとも言われています。

この国は「シリア・アラブ共和国」と共和国制になっていますが、実際には軍事政権、軍事国家です。中国や北朝鮮との軍事的なつながりも強く、軍事力ではイラクを上回るとされており、アメリカは最も軍事的脅威がある国と言っています。

歴史的には広大なユーフラテス川により古くから文明が栄え、この地域の文化・交易の一大拠点でもありました。その後、ヒッタイト、アッシリア、バビロンなど歴史上有名な文明が栄え、ヘレニズム文化の最高の中心地とされました。首都ダマスカスにあるダマスカス大学はエジプトのカイロ大学と並びアラブ諸国のみならず、アフリカも含めた地域の最高学府と称されています。

宗教は場所柄、イスラムの国と思われがちですが、隣国、レバノンと同様、キリスト教徒も沢山住んでいます。レバノンのように混在して住んでいるわけではなく、村や街によりここはイスラム教徒の住む所、こちらはキリスト教徒の住む所とはっきり分かれています。車で走っていても、キリスト教徒の住む地域に入ると女性が全くベールを被っていないので、教会などがなくてもすぐに分かります。

イスラム教徒の女性もベールを被る習慣は若い人には大分薄れてきており、田舎の保守的な地域を除けば顔全体を隠す人はほとんどおらずスカーフで髪を隠す程度。首都のダマスカスではイスラム教徒の女性でもスカーフすら被らないばかりか、なんと、カップルで手を繋いで歩く姿も！以前では考えられません。

以前シリアに来たのは約10年前。
始めてシリアに来たのは約20年前。
この20年の変化は大きなものがあります。

20年前、初めてシリアに来たときはアメリカによる経済封鎖の真只中。周辺のアラブ諸国や中国・北朝鮮からの輸入を除き西側諸国からの輸入はほぼ全面的に

ストップ状態が続いていたためスーク（市場）に行っても食料品と洋服はそれなりに揃っていましたが新品の電化製品、工業製品はほとんどありませんでした。このため修理屋さんは大盛況。それも使い始めてウン十年は経とうかという製品の修理。修理屋さんというより、骨董品屋さんと言った方がぴったりでした。

街を走っている車もクラシックカー。1940年、50年代に作られたヨーロッパやアメリカ製の車が現役で走り回っていました。修理に修理を重ねたため「元の車種は何？」という車も数多く走っていました。

電力不足も深刻で、ホテルでは各部屋に必ずロウソクとロウソク立、それにマッチが置かれていました。

でも、人は素朴で、親切。よく言えば、首都ダマスカスもちょっと田舎っぽい地方都市というのが当時の印象でした。

10年前、レバノンを訪問した際、シリアにも立寄りました。経済封鎖も終わり、街には西側諸国からの製品も多く見られるようになっていましたが、普通の人の生活水準ではとても手に入らない値段ばかり。

車は中古車が輸入されるようになったためか、以前のようなクラシックカーはほとんど見ませんでした。しかし、元々車の数は少ないので、首都ダマスカスでもノンビリしたものでした。

2005年とはいうと、首都ダマスカスに限らず大自動車時代到来。何処に行っても大渋滞。歩行者優先や交通ルールなどはあっていないようなもの。人が道路を渡っていようと、クラクションを鳴らして突っ込んで来ます。狭い道では本当に人の体に車体を擦りながらかなりのスピードで抜けていきます。シリア政府も交通警察官を増員して必死の対応。あちらこちらで違反切符を切っていますが焼け石に水。普段、あんなにノンビリしているシリア人がハンドルを握ると何故？という素晴らしい運転振りを見せてくれます。

生活水準が上がったこともあり、中古車が中心ではありませんが一般の人でも車を購入できるようになり車種も豊富。しかし、主要幹線道路を除き、旧市街などではロバや馬が荷車を引いて入れる道幅しかないの、小型車が中心です。



馬車のタマネギ売り屋さん。まだまだ現役です。

スークも品揃えがすっかり変り、価格は高いですがヨーロッパの市場とほぼ同じ種類
のものが売られています。

住宅街では一般のテレビ放送のアンテナだけでなく、ヨーロッパなどの衛星放送を受
信するためほとんどの家にパラボラアンテナが設置されています（公式にはヨーロッパ
など西側諸国のテレビ放送を見るのは違反らしいのですが、ここまで広まると取り締ま
る方法がなく放任状態とか。電気屋さんでも堂々とパラボラアンテナとチューナーが売
られています）。

どこの国も同じですが、首都ダマスカスも人口集中が激しく、いまでは人口約 175 万
人。

以前は単なる斜面でしかなかったところも住宅でびっしり。

昼はあまり目立ちませんが、夜になると電気が点くので、あんなところにまで住宅がと
ビックリします。

電力供給も安定しており、ホテルの部屋にもロウソクはありません。

このように街の様子はすっかり変り、到着した日は「アレ？ ここは何処？」状態。

さて、こんなシリア。どんな旅になるのでしょうか。

(続く)

次回は、(2) 携帯電話 です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp